6. 初期における女性ホルモン投与と胎芽での大血管転位症の出現頻度との関係

京都大学医学部解剖学教室
西村　秀雄

人工妊娠中絶によって得た6－7.5週の胎芽について大血管転位症（TGV-complex）の存在を調べ，一方これら胎芽の母体について，最終月経，この妊娠の成立の機会，胎芽採取の時と方法，年令，血族結婚の有無，生活環境，既応歴，妊娠分娩歴，受胎調節，妊娠中の合併症，妊娠中の診療処置，特にホルモン剤の使用などに関する調査を行ない，ホルモン剤投与と大血管転位症出現頻度との関係を追求した。

その結果は表1に示す通りで，妊娠初期に黄体ホルモン，卵胞ホルモンを投与された母体から得られた胎芽188例中大血管転位症を認めたのは1例（0.53%）で，これに対しこれらホルモン剤を投与されなかった母体から得られた胎芽1.034例中では大血管転位症は4例（0.39%）に認められ，両群の間に特に差は認められない。

Female sex hormones in early pregnancy and incidence of TGV-complex in 6-7.5 wk-embryos
(Nishimura and Semba, unpublished)

Exposure to progestogens and/or estrogens	Total no.	No. with TGV-complex (%)	Type
+	188	1 (0.53)	Partial TGV + small l.ventricle + mitral stenosis
-	1,034	4 (0.39)	complete TGV(2); Overriding aorta(2)

7. 妊娠中の黄体ホルモン剤投与と心血管系奇形児発生との関連性に関する調査

自治医科大学産科婦人科学教室
松本清一　吉田浩介

(1)妊娠初期黄体ホルモン剤投与妊婦の追跡調査

不妊症治療，避妊，或は流産予防などの目的で妊娠初期に黄体ホルモン剤を投与した婦人の症例を16機関の協力を得て集め，その妊娠経過，出生児の心血管系奇形の有無について調査している。これまでに調査完了した80例中には心血管系奇形児は1例も認められない。なお引続き調査継続中である。

(2)心血管系奇形児を出産した母親の妊娠歴及び家族歴等に関する調査

自治医科大学附属病院小児科外来を訪れた患者のうち先天性心疾患を有するものについて心疾患の種類や程度を明かにすると共に，その母親の妊娠中保健管理を行った医療機関に依頼し，妊娠中の黄体ホルモン剤投与の有無，投与した黄体ホルモン剤の種類，投与量，投与時期と期間，妊娠歴

検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

人工妊娠中絶によって得た 6-7.5 週の胎芽について大血管転位症(TGV-complex)の存在を調べ,一方これら胎芽の母体について,最終月経,この妊娠の成立の機会,胎芽採取の時と方法,年令,血族結婚の有無,生活環境,既応歴,妊娠分娩歴,受胎調節,妊娠中の合併症,妊娠中の診療処置,特にホルモン剤の使用などに関する調査を行ない,ホルモン剤投与と大血管転位症出現頻度との関係を迫求した。